



インスピレーションになろう

ガバナー一月信

2018年12月号 Vol.6

2018-2019 年度ガバナー 川瀬康裕



Contents



地区大会を振り返って	1	第2回GETS報告	13
長岡東RC創立60周年記念式典	4	新入会員紹介・訃報・今後の予定	14
ロータリーショーケース2560	5	出席報告	15
ライラ研修を終えて	9	コーディネーターニュース	16
米山学友会総会報告	11	ハイライトよねやま	17

地区大会を振り返って



地区大会実行委員会
委員長 齋藤 弘文 (三条 RC)

11月10日(土)11日(日)に三条市で国際ロータリー第2560地区2018-2019年度の地区大会が燕三条地場産業振興センターで開催されました。

私は実行委員長を引き受けてから、昨年7月には実行委員会組織を立ち上げましたが、その時は、開催まで、まだ1年以上もあるとの気持ちが皆どこかにあったような気がします。

年が明けて、7月に川瀬ガバナーが体調を崩され、長期の休養が必要となる事態になってしまいました。

しかし、これを契機にして、ホストクラブ、コ・ホストクラブの三条市内4クラブが心を一つにして準備に準備を重ねて地区大会本番を迎えることができました。

1日目の指導者研修がワシントンホテルで開催されました。

始まってしまうと、皆、役割分担にしたがって、良く動いてくれました。



石黒慶一国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会が始まると、本間美恵子さんのマリンバの演奏で場が和み、楽しい晩餐会になったと思います。

2日目の本大会は朝早くから、スタッフは集合し、参加ロータリアン約1,100名をお迎えし、新保清久副ガバナーから川瀬ガバナーに代わり采配をふるっていただき午前9時半に始まりました。

来賓の県知事、三条市長、三条商工会議会議長からあいさつをいただき、大会委員会報告、大会決議案決議、各種表彰とプログラムどおり順調に進み、昼食・休憩を迎えると、ほっと一息つくことができました。





そして午後の部を迎え、記念講演として、水野正人さんから「ロータリーと東京2020大会レガシー」のお話しが始まりました。お話の内容はロータリー発足の時代に始まり、東京オリンピックが開催されるとハード施設もちろん遺産となるが、ソフトの遺産もできる。ニュービジネスが生まれることも、その一つだという内容で、あっという間の1時間でした。

本当に人を引き付ける、素晴らしい講演になったと思います。



その後、ロータリー財団地区奨学生を始め、学生たちの活動報告、石黒RI会長代理の講評、次期開催地のあいさつ等、プログラムどおり進み、本会議は無事終了しました。親睦交流会では、邦楽演奏を日本音楽集団にお願いしましたが、準備段階では、リハーサルをどこで行うのか、ステージの演出はどうするのかも色々な意見がありましたが、45分の演奏を聴いて、結果は良かったなと感じました。



次に懇親の席となりましたが、これも準備の段階で、1,100食もの料理を質・量を考え、どのように作り、どうやって短時間の中で、配膳するかも時間をかけて準備をしてみました。結果としては、思ったよりスムーズに進み、田中政春地区研修リーダーの乾杯の発声で宴席もにぎわいホッとしました。途中、地区大会ゴルフ大会表彰式があり、ロータリーソング「手に手をつないで」を斉唱し、お開きのあいさつで終了しました。



本大会を振り返ると、実行委員会とホストクラブ、コ・ホストクラブの皆さんが協力して仕事を分担して、確実に実行したことにつける大会だったと感謝しております。

結びに、川瀬ガバナーに代わり采配していただいた新保清久副ガバナーに心より感謝を申し上げます。

また、来賓の國定三条市長のあいさつの中で、「この地域への地域貢献は簡単です。地元の産品を少しでも多く買っていただくことです。」とのユーモアを交えた挨拶が功を奏し、お昼の休憩時間の地場産業振興センターの売り場は、ロータリアンで一杯。後で聞くと前の週の日曜日と比べると100万円以上も売上増だったそうです。ロータリアンの皆様ありがとうございました。



「～地域と共に60年～友情に感謝！」 長岡東RC創立60周年記念式典のご報告。

会長 岸 伸彦(長岡東RC)

私たち、長岡東ロータリークラブは、1959年9月30日、長岡ロータリークラブをスポンサークラブとして設立以来、地域の皆様のご厚情や多数のロータリアンの友情とご支援により、60周年を迎えることができました。

記念式典では、新保清久副ガバナー、磯田達伸長岡市長、丸山智長岡商工会議所会頭、歴代パストガバナーの皆様はじめ、当地区から多数のロータリアンの皆様のご臨席を仰ぎ、挙行できましたこと、心から感謝を申し上げます。

記念式典では、記念事業として、長岡市の「長岡開府400年記念・新しい米百俵事業」への寄付金を贈呈し、また日本の経営史専門の由井常彦先生による「歴史が語る日本の経営」と題しての記念講演では、地域から輩出された立派な経営者達が、苦難を乗り越え大成していくエピソードを知り、改めてロータリー活動の中核を成す、職業奉仕の理念を強く実感することができました。

祝賀会では、演歌界で活躍する長岡出身の若き歌手である中澤卓也氏のアトラクションを皮切りに、会場が明るく華やかな雰囲気となりました。

そして鈴木重壺パストガバナーの心温まる激励のメッセージと力強い乾杯を契機に、和やかで楽しい歓談のひと時が始まり、たくさんのロータリアンの皆様からお祝いのお言葉や心強いエールと勇気をいただき、本当にうれしく感動致しました。

祝賀会の結びには、恒例の「手に手つないで」を熱唱し、皆様の満面の笑顔と友情の輪は、まるで長岡の夏の風物詩、「長岡花火」を彷彿させる、地域に咲く大輪の花のようでありました。

この60周年記念式典を機に、私たち長岡東ロータリークラブは、ゆるぎない歴史と伝統を築いてこられた当クラブの先人たちへ、ご臨席頂きました多数のロータリアンの皆様へ、活動を支えて下さる方々やご家族の皆様へ、献身的に会場設営をしてくれたローターアクトの皆様へ、そしてこの地域の皆様に、心から感謝を申し上げ、この日刻まれた深い感動とロータリアンの皆様の友情と共に、この地域や人の心に、きれいな花を咲かせるような奉仕活動を目指して参ります。

その夢の実現のため、大きな一歩を踏み出す勇気と英知をいただきましたことに、重ねて感謝を申し上げますとともに、さらに地域に愛される長岡東ロータリークラブであり続けることを願い、ご報告とさせていただきます。



■ロータリーショーケース 2560

ロータリーショーケースとは、成功したクラブのプロジェクトを世界中の人びとに紹介できるオンラインアプリケーションです。(MyRotary から掲載可)
当地区では、今月号より各クラブでの奉仕プロジェクトや成功事業などを共有するための情報発信の場として月信に掲載してまいります。

ロータリーショーケース 2560

■長岡 RC

～地域に根ざした子育て支援の実施～

当クラブはロータリー財団地区補助金を活用させて頂き「子育て支援事業」を実施しており「長岡市教育委員会子ども未来部子ども家庭課」と協力し、2015年から子供向けのコンサートや工作ショーなどを開いており今年で第4回を迎えることができました。

今年は、子育て世代が集い「子どもと子どもを結ぶ」「人と人を結ぶ」をテーマに名古屋市の人形劇団「むすび座」による人形劇を長岡市「子育ての駅ちびっこ広場」にて9月15日に開催しました。

人形劇を見ることにより家族のふれあいを促進し家族の絆を深め、子育て世代同士の交流の場となり同じ小さな子どもを持つ家族同士のふれあい、子ども同士のふれあいの機会を創出しました。

当日は、むすび座の3名が紙コップなどで作った人形を使った劇を演じたり、画用紙にマジックでなぞなぞを出して子供に答えてもらうなどの参加型で大いに盛り上がりました。

メインイベントの「あかずきんちゃん」の人形劇では、3人が舞台を縦横無尽に飛び回り、臨場感あふれる動きに子供たちの笑顔が広がりました。

約50組の親子、ロータリアン15名が参加し、地域のふれあいの機会、子育て世代を中心とした地域社会の人々への支援という人道的ニーズに応えるイベントを成功することができました。



人形劇終了後、参加者にアンケートを回収させていただき貴重なご意見をいただきました。今回のイベントに参加した感想では、大変満足（32人）、満足（15人）、普通（3人）、不満（0人）となり、94%の方が満足以上という結果になりました。フリー回答では、「子供のためのイベントを企画してくださいありがとうございました。ロータリークラブがこのようなイベントをしている事を初めて知りました。また機会があれば参加したいです。これからも今日みたいなイベントをよろしくお願ひします。（女性 30代）」、「長岡は本当に子育てしやすい地域だとつくづく思います。ありがたいです。（女性 30代）」、「今回のようなイベントがあればまた参加させていただきたいです。（女性 30代）」、「こういった子供向けの活動をこれからもやって頂きたいです。（女性 30代）」等のご意見も頂きました。

次回も開催を望む声も多くあり子育て支援の一助になったと思っております。地域と一体となった子育て支援の取り組みは効果があり今後も継続した取り組みを実施して行きたいと思ひます。



人形一座親子笑顔に

長岡

名古屋市の人形劇団「むすび座」の公演が、大手通2の子育ての駅ちびっこ広場で開かれ、親子約50組が歌や踊りを交えた劇に見入った。写真。

名古屋市の人形劇団「むすび座」の公演が、大手通2の子育ての駅ちびっこ広場で開かれ、親子約50組が歌や踊りを交えた劇に見入った。写真は、今年15日に人形劇を開催した。むすび座の3人は、紙コップなどで作った人形を使った劇を演じた。化け物が「カメとラクダとサイは何を買ったでしょう」となぞなぞを出し、子どもが「カメラください」と答えると、分らなかった親の方が「なるほど」と納得していた。

「あかずきんちゃん」の劇では、おばあちゃんがオオカミに食べられる場面に静まり返ったが、あかずきんちゃんと共に助け出されると、笑顔が広がった。吉崎の幼稚園年中、宮下葵生ちゃん(5)は「おばあちゃんが食

ロータリーショーケース 2560

■中条 RC

「秋晴れの祝日に家族植樹会（中村浜海岸整備計画）を実施」

11月3日(土・祝)文化の日に、中条 RC は 2018-2019 年度社会奉仕活動「地球環境保全のための植樹事業」として、胎内市中村浜海岸で家族植樹会を開催しました。かつて、胎内市中村浜の海岸沿線には、美しい松林の閑静な佇まいがあり、特に夕陽の時間帯になると日本海と砂浜、夕陽と松林が映える絵画のような絶景が間違いなくそこに存在していたのです。ところが、近年は松くい虫の被害により壊滅的な打撃を受け、砂浜と松林で見事だった景観の破壊のみならず、自然災害に備える意味でも、一刻も早い防風林の再生が望まれる地となっていたのです。

この家族植樹会は、花と緑豊かな潤いのある街作りに貢献することを目的に、平成 5 年に設立された「胎内市四季を愛する会（以降、四季を愛する会）」と相互協力し共同事業として計画しました。四季を愛する会は、胎内市の公園に累計 5,000 本のつつじを植樹したり、休耕田を整備して蜚の棲む水辺の再生に励んだり、花と緑で包まれる憩いの場作りを目指す活動を通年行っています。そして、平成 27 年 4 月 29 日みどりの日には、それまでの活動を評価され環境大臣賞を受賞した団体です。

当日は晩秋の新潟には珍しく、素晴らしい秋晴れに恵まれ、平年以上に気温は上昇し、暖かさを感じる日になりました。貴重な晴天の連休初日にも関わらず、胎内市長を初め、県から派遣された植樹指導者の方々、胎内市職員、中村浜住民の皆様、四季を愛する会の会員、他 120 名を超える年齢層も広くて偏りのない、本当に多くの方々にご協力を頂き、この計画を実施する事ができました。中条 RC から会員 36 名中 3 分の 2

に当たる 24 名の有志が、クラブで揃えた黄色のリフレックススポーツベストを着用して植樹に参加し、併せてロータリークラブ活動の広報にも努めました。

植樹参加者は、初めに担当者による植樹のデモンストレーションを見て、安全に配慮しながらの作業確認を行います。その後、担当箇所へ移動して、移植スコップを片手に見様見真似で、数種類の落葉樹の苗木を定められた区画毎に分担して植えて頂きました。参加者の近くには専門家の方々が数名ずつ控えているので、手順に誤りや迷うような事



があれば、その場ですぐに確認し修正できるので、比較的スムーズに植樹作業は進んだように思えます。

それから、心の片隅ではいつも気にしていながら、なかなか足を運ぶ機会がなかった昨年の植樹地を訪れ、樹木を慈しむように傍の除草を行う事ができたのも良かったです。1年の成長は僅かですが、数年ぶり豪雪の冬、記録的猛暑の夏を乗り越え、しっかりと枯れずに成長している苗木の姿を見て、何とも言えない嬉しさが込み上げ、或る種の感動を覚えました。「ありがたい」を漢字で書くと「有り難い」となり、本来は「有ることが難しい」という意味で滅多に無いことをいいます。その滅多に無いことに対する感謝の気持ちを伝える言葉として「ありがたい」が崩れて「ありがとう」になったと言われています。まさに、一年の時を経た苗木は「ありがとう」の言葉が相応しい姿だと思いました。

人間は様々な軋轢の中で日頃の価値判断に囚われ、年齢を重ねるとともに純粹さが薄れ、どうも慢心しがちで欲張りになるようです。困るのは、謙虚さを忘れた人達のみならず、自分自身の言動や行動にさえ翻弄される時があるということです。しかし、苗木たちは絶対性（大いなる平等）の存在に身を任せて健気に育ち、この小さな成長を自身の幹に年輪として刻み、やがて自然や住民にとってかけがえのない未来の富となり、財産となる事を知っているかのような無垢な存在に思えます。

新潟県には「にいがた緑の百年物語」という 21 世紀の 100 年をかけて木を植え、緑を守り育て、次代に「緑の遺産」を引き継ぐ県民運動があります。この植樹会も「にいがた緑の百年物語」に通じています。実は、四季を愛する会には、中条 RC の会員も大勢加入しており、郷土の森づくりや、未来へ大切な自然を残すために、植樹活動も継続的事業として取り組んでいます。今回植えた苗木も、これからの寒い冬の季節、積雪の下、とても切なく辛い環境の中、やがて訪れる春に季節が変わるまで、しっかりと根を張って、逞しくも素直に育ってくれることを祈るばかりです。



「ライラ研修を終えて」



ライラ委員会

委員長 前川 秀樹(直江津RC)

9月29・30日 2018-2019年度国際ロータリー第2560地区第18回ライラ研修が直江津RC主管のもと、研修テーマ「若者が考える、地域観光は」として開催されました。

今回の研修目的は、自分たちが住んでいる街を観光という視点から見たらどうだろうか？何が出来ていて、何が出来てなくて、これから何が出来るのだろうか、何をしなくてはいけないのだろうかという事を、未来があり考えなくてはならない若者に何かのキッカケをと考え主催させていただきました。

上越では初と言っても良い観光目玉で本年度オープンした水族館「うみがたり」、全国から人が集まるといふ観光列車「雪月花」と、上越にある新しい観光資源についてそれぞれのトップの方から考え方などをレクチャーしていただき、早朝には地引網体験してみるというプログラムでした。



残念ながら地引網は台風の風の影響で唯一の不安通り中止になってしまいましたが、研修生はホッとしていたようです。

直江津には研修施設のようなものが無いため、直江津RC例会場であるホテルで開催した事と地引網中止が懇親会時には解っていたため、研修生同士の夜の交流は盛んだったようですが、地区の同世代若者の交流という、もう一つの大きな目的は果たせたようです。

研修生には最後にアンケートを提出してもらいましたが、色々な意見・感想がありました。我々のような年齢では思わない事などもあり、私個人としてもそうですが参考にさせてもらおうと思います。

今回のライラ研修では昨年に再結成しました直江津ローターアクトクラブの面々に多くの手伝いをしていただきましたが、非常に立派に自主的に動いてくれました。頼もしくも思いましたし、こういうイベント開催に内部で参加するという事も大きな体験になるんだろうという事も感じました。

今後のロータリー行事だけでなく、若手育成の参考にさせていただきます。

今回のライラ研修開催にあたりましてご協力・ご尽力いただきました、地区事務局・青少年奉仕委員会の佐藤委員長はじめ各委員長様、地区各クラブそして直江津ロータリークラブの皆様に感謝申し上げます。大変有難うございました。

今年のライラ研修は少し遊び心を多くしすぎたような反省が私にはありますが、ご容赦ください。来年は雪国魚沼RC主管で舞子高原ホテルで10月19・20日に開催されます。本年に引き続き宜しくお願い致します。



米山学友会総会報告

米山記念奨学委員会

奨学生・学友委員長 小林 素子(新潟東RC)

開催日 2018/11/17

小雨の降る寒い日でした。夕方4時からの総会に、米山学友準会員、正会員、理事の皆さん、カウンセラーの方々、関係役員、米山委員が勢揃いし、総会の議題が予定通り進行しました。

内容は、学友会長の新旧交代挨拶、年度報告など・・・盛り沢山。前期の奨学生交流会の様子が懐かし映像で映し出され、関係者は感慨深そうでした。会則の改訂もありましたが、学友会の発展に寄与するもので当然ながら皆様からご賛同頂きました。

総会の後、懇親会では冒頭に、日本舞踊を共に習っているという直江津ロータリークラブの相澤 吉久さんと奨学生の王 佳穎くんの息の合った見事な舞をご披露頂きました。背筋がピンとして和服のお似合いのお二人は、まるで親子のようでした。

また、懇親会の中で、米山学友による近況報告をして頂きました。一人30秒の持ち時間をピタッと終わらせる人、マイペースに2分近く話す人、さまざまでしたが、日本企業でよく目にする光景が1分間、3分間スピーチなど、人前で話すことです。与えられた時間を最大限に使い、自分の考えをいかに分かりやすく伝えるか決して簡単ではありません。奨学生にそんな日本企業の紹介をしつつ進行がスムーズにいくことも鑑みつつ・・・会も終盤にさしかかり奨学生からクリスマスパーティの開催をしたいと提案がありました。自主的な発案と、行動力に感銘を受け、皆その提案に賛同してくれました。



学友会が奨学生の自主性が育まれる場になることも大いに歓迎したいものです。
学友会の益々の活発な活動と、その継続を心から祈念しております。



第2回 GETS(ガバナーエレクト研修) とロータリー研究会



ガバナーエレクト
大谷 光夫(高田RC)

11月18日(日)～21日(水)の4日間、神戸市で開催され、出席してきました。GETSでは2019～2020にかなり変化するRIの方針とそれに伴う地区レベルの方法を研修しました。

ロータリーは財団、米山、青少年を除き単年度事業としてきましたが、今後は他の委員会も継続性が求められます。但し運営方法は単年度毎に変化することになります。特に地区レベルでは、クラブ奉仕委員会が廃止され、会員増強、クラブ拡大、公共イメージ向上、戦略計画を委員会は推進するよう求められ、会員増強拡大委員長は3年継続となり、社会奉仕、国際奉仕も委員長は3年継続とするよう求められています。18日の財団セミナーには当地からPG3名、委員1名が出席されました。19日はGETSとRI会長歓迎晩餐会。20日・21日はロータリー研究会と詰込み研修でした。特に印象深かったのは、40代のガバナーが世界には多くおられ、40代ガバナー会を結成されつつあることに、ロータリーは年齢不詳、平等であると思いました。そしてロータリーの基本、職業奉仕と職業分類は不変であることを改めて認識いたしました。



12月地区の予定 【疾病予防と治療月間】

(RI レート: \$1=¥112)

	地区主要行事	会場
2(日)	2018 全国青少年交換委員長会議	TKP 品川港南口会議室
3(月)	D2560・D5100 青少年交換委員会協議会	ホテルハイマート
8(土)	ロータリー財団地区奨学生募集説明会	万代シルバーホテル
8(土)	地区諮問委員会	ホテルオークラ新潟
8(土)	2019-20 年度第 1 回地区運営会議	ホテルオークラ新潟
8(土)	大谷ガバナーエレクト渡米壮行会	ホテルオークラ新潟
23(日)	青少年交換学生一年派遣学生オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
23(日)	青少年交換学生 2018 クリスマスパーティー	ホテルオークラ新潟

1月地区の予定 【職業奉仕月間】

	地区主要行事	会場
13-19(日～土)	2019 年度国際協議会	サンディエゴ
19(土)	2019 年度米山記念奨学生選考会	万代シルバーホテル

新入会員紹介

RC	氏名	入会日	会社名	職業分類
新潟	高野 広充	2018.11.6	東北電力(株) 新潟支店	電力供給
直江津	岩崎 康文	2018.10.2	(株)上越工産	建設資材販売
直江津	安田 佳世	2018.11.13	学校法人 上越学園 たちばな春日幼稚園	幼稚園

訃報

クラブ名	氏名	ご逝去日	会社名
柏崎 RC	植木 康之 2009-2010 年度ガバナー 名誉会員	2018.11.19	株式会社植木組 取締役会長

心よりご冥福をお祈りいたします。



第2560地区 2018-19年度 10月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数			
			2018年7月1日	10月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	85.93	375	383	37	8	
新発田	4	96.65	95	98	0	3
村上	4	84.47	37	37	9	0
水原	4	86.60	27	27	0	0
中条	4	88.89	36	36	3	0
新発田城南	4	78.24	43	45	4	2
豊栄	4	83.33	24	24	3	0
新発田中央	5	82.04	49	51	5	2
中条胎内	4	86.49	37	37	7	0
村上岩船	3	86.68	27	28	6	1
第2分区(9クラブ)	80.77	437	452	21	15	
新潟	5	84.36	86	92	1	6
新潟東	4	83.34	57	60	7	3
新潟南	5	78.80	104	105	2	1
佐渡	4	85.70	7	7	0	0
新潟西	3	88.89	39	41	1	2
佐渡南	5	82.90	41	42	5	1
新潟北	4	74.38	40	41	0	1
新潟中央	5	77.60	25	25	0	0
新潟万代	4	70.95	38	39	5	1
第3分区(6クラブ)	75.64	117	115	4	-2	
新津	4	71.06	18	19	0	1
村松	4	100.00	9	9	0	0
五泉	4	75.00	13	12	1	-1
白根	4	72.85	37	36	1	-1
新津中央	4	72.42	30	29	1	-1
阿賀野川ライン	4	62.50	10	10	1	0
第4分区(11クラブ)	81.02	365	375	26	10	
三条	4	84.94	56	60	0	4
燕	4	66.66	33	34	2	1
加茂	4	76.29	28	29	5	1
三条南	4	92.20	48	48	3	0
分水	4	90.35	28	29	3	1
見附	4	70.00	20	20	1	0
吉田	3	92.30	28	30	3	2
三条北	4	81.74	64	63	2	-1
巻	4	83.80	20	22	1	2
田上あじさい	4	67.90	7	7	1	0
三条東	3	85.06	33	33	5	0

R C	例会数	出席率	会員数			
			2018年7月1日	10月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	85.26	316	324	24	8	
長岡	4	86.84	45	48	1	3
柏崎	4	81.85	43	43	0	0
長岡東	4	93.50	67	67	5	0
柏崎東	4	92.16	48	50	4	2
栃尾	4	79.27	22	23	0	1
長岡西	4	81.59	56	56	5	0
柏崎中央	4	81.64	35	37	9	2
第6分区(6クラブ)	80.10	149	149	10	0	
十日町	4	89.70	33	33	3	0
小千谷	3	65.16	33	33	4	0
雪国魚沼	5	70.60	27	27	2	0
十日町北	3	92.42	22	22	0	0
津南	4	87.98	27	27	1	0
越後魚沼	4	74.75	7	7	0	0
第7分区(8クラブ)	86.61	330	337	22	7	
高田	4	99.07	65	64	0	-1
直江津	4	84.82	61	64	4	3
新井	5	73.34	30	34	2	4
糸魚川	3	100.00	41	42	3	1
高田東	4	80.29	37	37	2	0
糸魚川中央	4	75.71	36	36	0	0
頸北	4	95.80	15	15	1	0
越後春日山	4	83.82	45	45	10	0

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,089	人
10月末 会員数	2,135	人
女性会員数	144	人
純増減会員数	46	人
当月平均出席率	82.42	%

※先月号の訂正

分水RC 9月出席率(91.23%⇒100%)



■ 「ロータリアンの顔の見える、ストーリーのある住民参加の広報活動」

第3ゾーン・RPC部門戦略計画において、第3ゾーン2018-19年度の目標を一番目にロータリー公共イメージと認知度の向上:マスメディア・地方広報機関・SNSで推進、二番目に「My ROTARY」への登録率60%の達成、三番目に「ロータリークラブ・セントラル」への各クラブ活動Dataの定期的入力と開示の推進を掲げた。



2730地区の2016年6月末でのMy ROTARYの登録率は14.54%と低迷していた。そこで、クラブ戦略計画に対する取り組みの状況と公共イメージ向上への対応を分析して、地区としてどのようにクラブ強化のサポートが出来るのかを提言する目的で各クラブ役員に公共イメージ向上のアンケート調査をしました。65クラブ中57クラブから回答があり回答率は87.76%でした。このことから公共イメージに対する関心の高さがうかがえました。しかし、戦略計画委員会を設置しているクラブが28%と低いことがわかりました。



公共イメージ向上のために地域社会が必要としている奉仕活動を「クラブとして、何かしていますか。又は、見直しをしていますか」の問いに対して87.7%のクラブが「はい」でした。

「2017-18年度の活動をマスコミなどで報道されたことがありますか」の問いに対して73.7%のクラブが「はい」と高い回答率でした。

「2018-19年度のロータリー賞へのチャレンジを予定していますか」の間には、「はい」が35.1%で「いいえ」が57.9%となっていた。

「世界を変える行動人」キャンペーンを知っていますかについてはよく知っている5.3%、聞いたことがある43.9%、知らない47.4%でした。

これらのデータから、My ROTARYのラーニングセンターやロータリークラブ・セントラルをもっと活用し、戦略計画と公共イメージに対する認識と理解を深め、そして、「地元を変える行動人」の推進を強く感じました。

ロータリーの奉仕活動には有形無形のものがあります。

今後の地域での広報の在り方については地域住民も巻き込み、ストーリーの伝えられるロータリアンの顔が見えることが必要だと思います。また、持続可能な積極的参加の出来る内容と仕組み、仕掛けづくりを検討することによって多様性のある広報手段で、公共イメージ向上に繋げると思います。

第3ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 山下皓三 (鹿児島西RC)

■ 「ロータリーの情報伝達経路の不備」

九州4地区担当のロータリーコーディネーター補佐を務めて2年目になります。働きかけの相手が自分の地区だけでなく他の3地区も含まれるので、あまり手を広げても抽象論に終わる可能性があるため、会員増強だけに絞って取り組みました。一般に会員数は期首から増加し、12月、3月、6月に減少し、殊に6月末には多数の退会者があるので、期首からの増加だけを見ても期末の会員数を推定することは困難です。一方、前年同月との比較を見ると、期末の増減が比較的早期に推定できます。そこで、九州4地区の過去5年間の前年同月の比較の統計に加えて当該年度のデータを毎月末にガバナーに送付して、地区の会員増強の参考にしてもらおうと試みをしました。その効果があつてかどうか、九州4地区で合計82名の純増になりました。今年度はガバナーに加えて地区幹事と地区会員増強委員長にも送付しています。

ところで、私が地区ガバナーに伝えた情報が各クラブの会長やクラブ会員増強委員長を経てさらにクラブ会員まで伝達されているかどうか気がになります。同様に、RI会長の活動方針がロータリーの真の実力者であるクラブ会員まで浸透しているかどうかです。当地区では、ロータリーの本質は例会出席、親睦、職業奉仕、陰徳であるという説が広く信じられており、数年前のロータリー研究会で、「例会なくして親睦なし 親睦なくして奉仕なし」とのスローガンが他地区から声高に述べられました(中核的価値観の親睦をご一読願います)。そのような雰囲気にならざるを得ない会員がクラブ会長になり、やがてガバナーになった場合、「国際ロータリーは世界有数の国際人道支援団体である」という見識を持ったRI会長の意向が、GETSや国際協議会などの短期集中研修を行ってはいませんが、誤解なく受け入れられているだろうか。これに関して、今年度の私の地区のガバナーメッセージ「寛容と思ひやり そして和の心」が月信の表紙に大きく印刷されており、その下に小さな活字で国際ロータリーのテーマ「インスピレーションになろう」が書いてあります。これは手続要覧の趣旨とは異なるだけでなく、ガバナーの役割が問われるように思います。

このような状況で、ARCの私のお勧めがどの程度地区ガバナーに受け入れられるかや不安もありますが、会員増強はクラブの存続にもかかわることが比較的分かり易いのですが、財団への寄附や公共イメージと認知度の向上などの活動についてガバナーのリーダーシップがどの程度発揮されるか心もとない点があるように思います。

第3ゾーンロータリーコーディネーター補佐 穴井元昭 (博多RC)



2019 学年度奨学金申し込み状況

2019 学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士／地区奨励）には、指定校 539 校（「地区を超えた指定校」の重複含む。前年度 534 校）から 1,384 人（1,355 人）が推薦されました。被推薦者の国籍・地域は、中国 50.9%（53.5%）、ベトナム 13.2%（11.7%）、韓国 9.3%（9.4%）、そのほか、台湾、ネパール、マレーシア、インドネシアの順となっています。ベトナムは昨年と同様、申し込み段階で韓国を越えて、国籍別の第 2 位となりました。

被推薦者の奨学金別応募状況は、博士課程 21.2%（20.5%）、修士課程 37.9%（42.7%）、学部課程 38.7%（35.0%）、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、8 地区 13 校から計 32 人の応募がありました。

11 月中旬に各地区へ応募書類を郵送し、1 月末日までに地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、新規・継続合わせて 2019 学年度奨学生 850 人枠（2018 年 11 月現在）が決定します。

大学とロータリーとの交流を — 第 2580 地区 —



11 月 8 日、第 2580 地区（東京都）米山奨学委員会が主催する三者懇親会が開催されました。これは、奨学生・カウンセラー・指導教官ら大学関係者が一堂に会し交流を深めるためのもので、今年は総勢 100 人が参加しました。

まず、奨学生とカウンセラーがそれぞれ別室でグループディスカッションを行い、日常の疑問点や奨学生としてやってみたいことなどを話し合っ、グループごとに発表。続いて大学関

係者が合流し、第 2620 地区学友会のラシタ・エリヤーワ・アサンカ会長（スリランカ／2006-07／甲府南 RC：現在同クラブ会員）が、奨学生時代のエピソードや夢を実現する意思を持つ大切さ、学友会活動やロータリアンになること等、現役奨学生たちの模範となる話を披露しました。その後は会場を移し、指導教官とカウンセラーが飲食を共にしながら奨学生の日常について話し合ったり、奨学生がひと言スピーチをしたりしました。

同地区の比留間孝司委員長は「奨学生やカウンセラーがそれぞれ顔を合わせて意見交換するだけでなく、大学関係者と交流できる意義は非常に大きい。当地区の伝統としてこれからも続けていきたい」と、話しました。

寄付金速報 — 米山月間のご支援に感謝いたします —

10 月までの寄付金は前年同期と比べて 4.4% 減（普通寄付金：0.3% 増、特別寄付金：7.6% 減）約 2,480 万円の減少となりました。前年度が当財団設立 50 周年ということもあり、前年度比では減少幅が大きくなっていますが、寄付

累計額としてはほぼ例年並みで推移しています。学友、ロータリアンの皆様からのご寄付に心より厚く御礼申し上げます。上期も残り 2 ヶ月を切りましたが、今後ともご協力賜りますようお願いいたします。

ホームカミングで来日！学友が地区大会スピーチ

第2780地区 10月14日、茅ヶ崎市で開催された第2780地区（神奈川県）の地区大会2日目本会議で、台湾米山学友の徐重仁さん（1976-77／平塚RC／台北東海RC創立会長）が25分間の記念講演を行いました。日本留学中に会ったコンビニエンスストアを台湾に初めて導入し、“台湾流通業の父”と呼ばれる徐さんのこれまでの軌跡と感謝の思いのこもったスピーチに、会場からは惜しめない拍手が送られました。



また当日は、友愛コーナーに「米山お茶サービス」の広いブースが設けられ、奨学生・学

友がそれぞれの母国のお茶やお菓子でロータリアンをもてなし、大盛況でした。

第2550地区 10月28日、栃木県宇都宮市で開催された地区大会本会議で、カンボジアから来日した米山学友、サ・ソチアさん（2009-11／宇都宮東RC）がスピーチをしました。ソチアさんは母国パニヤストラ大学で教鞭をとる傍ら、日本語・ビジネス研修センター所長をつとめています。将来はカンボジアに米山学友会、また、ロータリークラブを設立したいと目標を語り、会場から大きな拍手を受けました。なお、会場外では、現役奨学生の研究内容をまとめたパネル展示があり、ロータリアンは次々と足を止めて、奨学生たちの説明に耳を傾けていました。



この「研究発表」は今年で3年目、奨学生同士にとっても互いに良い刺激になっているということです。

田中作次奨学金 — ミャンマー米山学友会 —

ミャンマー米山学友会では、元国際ロータリー会長の田中作次氏からの寄付金を基金とし、「田中作次奨学金」を設立して、日本語を学ぶミャンマーの貧しい学生へ奨学支援をしています。

10月14日、2年目となる同奨学金の贈呈式がKyoshin JETC日本語学校で行われ、今年は4つの日本語学校で学ぶ学生15人に、1人20万チャット（約14,500円）が授与されまし

た。第1期生の中には、実習生として、また介護福祉士を目指して来日したり、学友が経営する日本語学校で働くなど日本に関わる夢に向かって進んでいるとのことです。



もうすぐ締切

普通寄付金 申告用領収書の申請は11月末まで！

普通寄付金分の確定申告用領収証の申請期限は11月30日です。当会ホームページのメニュー、

寄付金について → 「普通寄付金：申告用領収書の申請はこちら」からお手続きください。

特別寄付金については来年1月下旬、自動的にクラブ経由で送付されますので申請はご不要です。



インスピレーションになろう



自らのロータリーストーリーを作りましょう